

寺報は無料、不要の方は一報下さい。

第252号

龍源寺報

令和8年（2026年）孟蘭盆号

臨濟宗・妙心寺派	住職 松原信樹
佛母寺住職 松原覚樹	正福寺住職 松原行樹
TEL 03-3451-1853	FAX 03-3451-6094

振込 00160-0-104918 東京都港区三田5丁目9-23（郵便番号 108-0073）

Email: info@ryugenji.com

URL: http://www.ryugenji.com

孟蘭盆会におもつ

龍源寺住職 松原信樹

京都学派の西田幾多郎（一八七〇～一九四五）は、かつて次のように歌っている。

わが心―深き底あり―喜も―憂の波も―とどかじと思ふ

私たちが抱えている本当の問題は、表面的な知識や議論の中には見えてこない。むしろ、人には容易に語ることでできない、心の奥深いところに潜んでいるのではないだろうか。そのような問題は、自分の生活や感情と切り離されたものではなく、自分そのものと一体となっている。そうした根源的なものに根を下ろした主体性を持った生き方が、人間に生きがいのある生活を可能ならしめるのではないだろうか。

問題と向き合い、心の奥底から聞こえてくるかすかな声の中に、私たちは役割や使命の自覚、美しいものへの感応、希望と絶望といったさまざまな契機を見いだす。禅宗でいう「こじきまゆめい己事究明」とは、「自分自身の根本の問題を徹底して明らかにすること」を意味する。外から得られる知識にとどまらず、自分とは何かという問いを深く見つけることであ

る。臨濟宗の修行僧は、坐禅や作務を通して、ひたすらその問いに向き合う。

一方で、人はときにそのような内省から少し距離を置き、日常を離れて旅に出たり、静かに時を過ごしたりすることもある。それもまた、人間にとって大切な営みであろう。

萩原朔太郎（一八八六～一九四二）は、次のように歌っている。

ふらんすへ行きたしと思へども―ふらんすはあまりに遠し―せめては新しき背広を着て―きままなる旅にいでてみん―汽車が山みちを行くとき―みづいろの窓によりかかりて―われ一人うれしきことを思はん―五月の朝のしのめ―うら若草のもえいづる心まかせに（『純情小曲集』）

この「ふらんす」とは、実際の国というよりも、理想や憧れの象徴とも捉えられる。そこへ行きたいと思いつながら、現実には届かない。その距離感の中に、人間のさびしさや切なさが表現されている。人は小さなことで傷つきやすい。しかしその一方で、小さなことで慰められもする。深い内面を内省すること、遠いものに憧れること。そのどちらも人間の姿であり、その振幅の中に、私たちの人生の現実があるのではないだろうか。

盂蘭盆会

一、七月十日（金曜日）午前十一時

一、法話

・駐車場はありません。

南北線をご利用ください。

※龍源寺の周囲が再開発される中、龍源寺を地域の文化資源の一つとして考え、先代から引き続き、境内整備に力を注いで参りたいと思います。ご支援いただけた個人・団体・法人の皆様にあらためてご協力を賜りたくお願い申し上げます。未熟者ですが、今後とも宜しくお願い申し上げます。

龍源寺住職 松原信樹

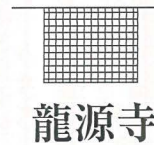
至目黒

白金高輪
下車（2番出口）
徒歩約5分

明治通り
古川橋

地下鉄（南北線）

至麻布



龍源寺への交通の便（地下鉄）

● 南北線。白金高輪駅下車。徒歩五分。

2番出口から地上に出ると案内看板に「龍源寺」名あり。

〈都バス〉

● 田87 渋谷駅—田町駅 魚籃坂下下車 ぎよらん

● 都06 渋谷駅—新橋駅 古川橋下車

● 品97 品川駅—新宿駅西口 魚籃坂下・古川橋下車 ぎよらん

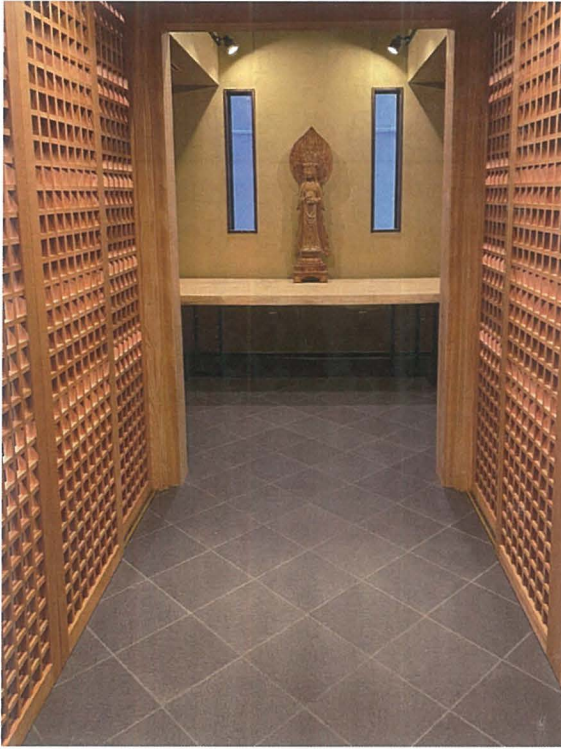
● 反96 五反田駅—品川駅—六本木ヒルズ（循環）

魚籃坂下・古川橋下車 ぎよらん

〈東急バス〉

● 東98 東京駅南口—等々力操車場 魚籃坂下下車 ぎよらん

「水月堂」の様子

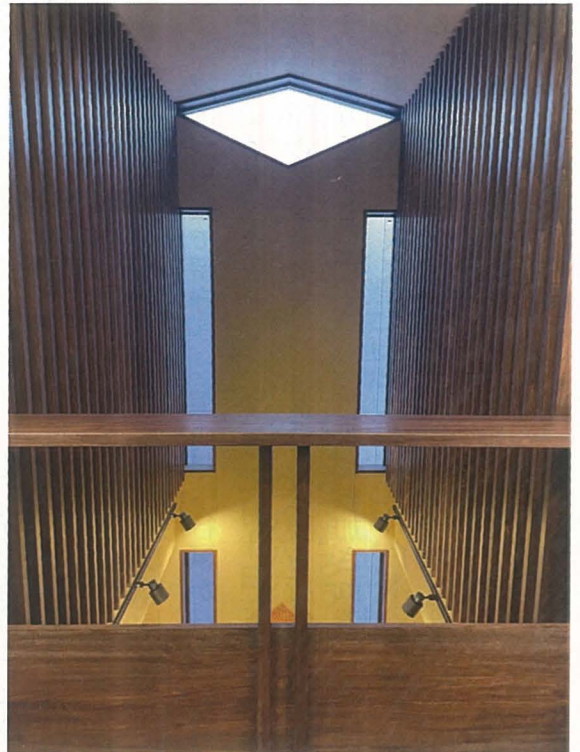


水月堂 1階正面

納骨堂は暗いイメージでしたが、
あたたかく、明るい納骨堂と
なりました。

※水月堂とは、江戸期に龍源寺境内に
実在したお堂の名称です。

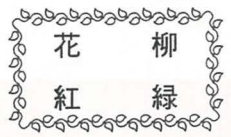
龍源寺が責任をもって供養を
させていただきます。



水月堂 2階正面



Instagramを始めました。アカウントは ryugenji.zen です。お寺の行事や工事の状況などを配信していきます。皆さまフォローよろしくお願いします。



盂蘭盆会を迎えます。皆さまいかがが過ごしでしょうか。龍源寺界隈の再開発が行われるなか、境内の緑を大切にしていきたいと思

います。最近、本当に貴重な緑だとつくづく思っています。今年も、祖母が植

えたマツリカの花が綺麗に咲きました。梅の実を収穫してから、一度、境内の消毒をし、盂蘭盆会の準備に入ります。

▼六月六日に、父である哲明和尚の七回忌を迎えます。当日は、寺族で法要をし、十二月一日の開山忌という、龍源寺を開かれた住職の法要の際に、二十名くらいの和尚さまにお経を読んでいた

くださいます。▼六月二十八日(日)午前より、本堂の全てのお位牌拭きを行います。お手伝いいただける方、よろしく

お願い申し上げます。毎年、お盆の時期に行う恒例の行事の一つです。七月中のお盆の行事を経て、七月末に北軽井沢の日月庵坐禅堂での三十名近くの研修が行われます。最近の温暖化により、北軽井沢の現地の方でも室内

にクーラーを入れているということで、研修所に、クーラーを設置することを検討しています。予想外のことでした。

▼コロナで一度閉店した、料亭・秀さんが、再び法要後のお食事の提供を再開致しました。法要後の御齋を龍源寺でなさる場合はご利用ください。▼私

は、今年の五月で五十五歳になりました。先代、先々代のように、なかなかいきませんが、地道に行ってまいりたいと思

います。お寺の仕事というのはきりがなく、「ここまで」という区切りがありません。最終的には、けじめのような気持ちが必要にな

ります。未熟者ですが、よろしくお願ひ申し上げます。▼母は元気に毎日

を過ごしています。家内が出張で留守しているときなど、娘のお弁当を作ってくれます。また、茶道の教室も充実しているよう

です。亡くしては、もうすぐです。振り返ると、亡くなった祖父と父の仕事

を助け、家庭を守り、龍源寺のあらゆる原動力であったことは、御来山ください。寺族一同お待ちしております。

で忙しくしています。どうしても、娘を寝かしつけてから、自分の仕事の整理や勉強をする毎日です。大変だなどいつも思っています。腰痛が治らないのが心配です。瑞樹も元気に学校に通っています。ありがたいことです。▼

納骨堂にて永代供養をされる方は、ご連絡ください。私自身も、お墓の改葬を経験しましたので、お力になれると思います。もちろん、東北寺の墓地も若干ですがございます。▼盂蘭盆会、

いわゆる中国でいう中元節は、七月十五日を中元の佳節として、年間の無事を祝い、祖先を祀り秋成を告げる日として、農耕生活に組み込まれて人々の生活に浸透しました。盂蘭盆会は、中国の年中行事が日本に伝わったもので

す。▼七月十日午前十一時より、盂蘭盆会の法要を行います。今年、お盆の行事に参加される方、又は、新盆を迎える方は、白木のお位牌を柵に安置し、二十人ちかくの和尚さまに読経いただきますので、御来山ください。寺族一同お待ちしております。